

自然との出会い

～そこで生まれる心の育ち～

社会福祉法人創心会 フォレストキッズ保育園 栃木県

未満児と自然との対話に耳を傾ける

比較的年齢の低い子どもたちが自然と出会い、心を動かした瞬間を独自の視点で読み解いています。梅の木の大きさや質感、模様を感じ取るS児は、まるで自然との会話を楽しんでいるかのようです。ここには、はっきりとした言葉やダイナミックな試行錯誤はありません。しかし、S児の姿からは、人生の早いうちから自然に対する好奇心や畏敬の念が芽生えること、未満児なりの自然との対話のあり方があることに気が付かされます。そうした未満児たちに日々寄り添い、価値ある瞬間として記録した先生方の視点も素晴らしいです。自然との素朴な対話を重ねた子どもたちが、今後どのように育っていくのかとても楽しみです。

ここが
Point!

身近なものに心を動かす力の育ち

1 歳児 / 10月

梅の木との出会い

ビオトープを散策していたS児。大きな梅の木を目の前に立ち止まり、梅の木を見上げる。目線を自分の背の高さに戻すと、じっと梅の木の幹を眺めていた。しばらくすると、そっと近づき、幹に手をあて、触っていた。手を左右に動かしたり、幹の模様を眺めたりしながら、触っていた。保育者が見ている事に気が付いたS児は、笑みを見せながら、梅の木を指さし保育者に向かって、「〇〇〇。」と自分なりの言葉で伝えてきた。保育者が「木が大きいね。」と伝えると、保育者も触ってというように、保育者の手を持っていこうとしていた。保育者が触てみると、保育者の顔を除き込み、「どう?」と言った表情で見つめてくる。保育者「ぼこぼこしているね。気持ちいいね。」と伝えると、にこにこ笑いながら、Sも一緒に触っていた。

事物に対面する

働きかける

興味を持つための援助

反応を知る

次の働きかけに
繋がるような援助

働きかける



考察

自然と対面し、「何だろう?」と不思議に思い、自分の目で見て、「どうなっているの?」と触れて、試して、感じていた。こういった、身近な環境への関わりを通して、「面白いな、不思議だな」と感覚を捉え、好奇心を育み、様々な物事への興味、関心へと繋がっていくのだと思う。保育者は、S児が梅の木に興味を示し、関わろうとする姿を見守り、気づきや感じた事を、表情や仕草から汲み取り、共感し関わっていく事で、安心して自分の世界を広げ、興味、関心を深めていくのだろう。